

## 2025年度SAM名古屋支部8月例会のご案内

拝啓 盛夏の候 会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

8月例会は、作家 鳴海 風 様に“司馬遼太郎が「明治の父」と呼んだ小栗上野介”  
～横須賀製鉄所(造船所)建設の意義～ のテーマでお話を伺います。是非ともご出席を  
賜りますようお願い申し上げます。 敬具

記

- ◆日 時：2025年8月19日(火曜日) 12:00 ～ 14:00 (食事付きです)  
【Zoom ミーティング参加の方】

<https://zoom.us/j/5221559787?pwd=auWu3LdwPlvvLsDnkYX5ERk4ZDxV2R.1>

ミーティング ID : 522 155 9787

パスコード : 20250819

- ◆例会会場：「ガス燈」(今池ガスビル8階)

名古屋市千種区今池1丁目8-8 TEL : 052-732-2944

- ◆講師：作家 鳴海 風 様

1953年 新潟県生まれ

1980年 東北大学大学院機械工学専攻修了。日本電装株式会社(現・株式会社デンソー)入社。

1992年 「円周率を計算した男」で歴史文学賞。

2006年 日本数学会出版賞。

2011年 日本経営工学会論文賞。

2012年 日本機械学会生産システム部門学術業績賞。

2014年 デンソーを定年退社。

2017年 『円周率の謎を追う』(くもん出版)が、読書感想文全国コンクール中学校の部で課題図書。著書は鳴海風の名前で『鬼女』(早川書房)、『江戸の天才数学者』(新潮選書)など多数。本名の原嶋茂でも『新版はじめての変化点管理』(日刊工業新聞社)などがある。博士(経営情報科学)、MBA(経営学修士)。

- ◆テーマ：司馬遼太郎が「明治の父」と呼んだ小栗上野介

～横須賀製鉄所(造船所)建設の意義～

幕末、日本の近代化に尽くした、小栗上野介の実像を知る人は多くない。ペリー来航の翌嘉永7年(1854)、日本は開国(鎖国は終焉)し、諸外国との外交が始まっていた。小栗上野介が歴史の舞台に登場したのは、日米修好通商条約の批准書交換を目的とした、万延元年(1860)遣米使節のNO.3である目付(あるいは監察)に任命されてからである。使節らは、アメリカの船でサンフランシスコへ渡り、ワシントンで大統領に国書を奉呈、アメリカ各地を熱心に見学したのち、帰りは大西洋、インド洋を渡るという、ほぼ世界を一周する形で帰国した。特に近代文明を目に焼き付けた小栗上野介は、尊王・攘夷・倒幕の渦巻く中、幕臣として政務にあたりながら、日本最初の株式会社の設立をはじめ、ガス灯設置・郵便制度・鉄道建設の提案など、日本の近代化へ向けて奮闘したが、極めつけは横須賀製鉄所(造船所)建設という国家プロジェクトの推進である。このプロジェクトの発端、経緯、結末、そこで展開された近代的マネジメントの詳細を語ることで、のちに司馬遼太郎をして小栗上野介を「明治の父」と呼ばしめた理由を知っていただきたい。

- ◆会 費：3,000円(当日のキャンセルは、キャンセル料を頂きます)

- ◆出欠の有無：2025年8月11日(月)までに下記 事務局にご連絡をお願いします。

【事務局】メールアドレス：[samnagoya2022@makino-co.co.jp](mailto:samnagoya2022@makino-co.co.jp)

問合わせ先：株式会社マキノ(二俣) TEL：0569-36-0123 FAX：0569-35-6182

当日の連絡先：090-3308-0010(牧野克則)